

■第8回犬山市観光戦略専門部会（令和3年10月29日開催） 発言要旨と対応方針

番号	委員名	要旨	対応方針
◆観光戦略の全体について			
1	片岸委員	戦略資料は体系立った形で構築されており、わかりやすい。名古屋鉄道としては”ジモタビ”という表現で、地元を見直す観光、アプローチをしている。インディゴを契機に、沿線以外にも積極的に犬山をPRしたい。宿泊型の観光地にシフトさせていきたい。	近場の観光、地元を見直す観光についても大事にしていく方向性を持っている。その中で若い世代、ファミリー、シニアについて滞在時間の延長を促す取組みを進めていく。滞在・体験型の観光地へのシフトも本戦略で目指そうとしているところである（施策の体系整理にて表現）。
2		名鉄としてもホテルが2つできたので、名鉄沿線だけでなく関東・関西など宿泊のターゲットとして、ホテルだけでなく、犬山の魅力発信をしていきたい。	4-5施策の体系整理で重点ターゲットの一つに「滞在・体験型観光客（圏域の拡大）」を目指すこととして反映。関東・関西圏へのプロモーションも重要となり、チャレンジする重点施策に記載。
3		日帰り観光に取り組みながら、宿泊型観光へと大シフトしていかなければならないと思っている。	4-5施策の体系整理で重点ターゲットの一つに「滞在・体験型観光客（圏域の拡大）」を目指すこととして反映。
4	片山委員	名古屋圏のみならず、首都圏、関西圏に対しても新幹線を使った商品化していく必要がある。	関東・関西圏へのプロモーションも重要となる。戦略のターゲットとして「首都圏（リニアを見据え）」を設定し反映。また4-6施策の総括表にてチャレンジする重点施策に記載する。
5		学校団体の遠足、校外学習で来た子どもの頃の思い出により、何十年後かに家族でまた訪れることがある。学校やMICEを誘致するためのインセンティブがあるとよい。	重点プロジェクトの一つに「ユニークMICE」を掲げており、教育旅行なども当然含まれ、誘客を進めることとしている。誘致のインセンティブについては推進体制の中で議論し検討する。
6		観光戦略の推進にあたっては、周辺自治体との連携が必要になってくる。表現として連携という言葉がほしい。（木曽川中流域、桃太郎伝説プロジェクトなど）	方針別の施策に「7-2 広域連携による周遊観光の構築」を追加。チャレンジする重点施策「広域観光・周遊ルートの造成（犬山を宿泊拠点とした広域周遊）」を、「周辺自治体と連携した広域観光・周遊ルートの造成（犬山を宿泊拠点とした広域周遊）」に修正する。
7	奥村委員	商工会議所では一人当たりの日帰り消費額をよく聞かれる。市が平成24年度調査した際は2,259円であったが、令和元年度の調査では1,600円程度上がっている。当時と今の数字を比較していいものなのか。分母の数字はどうなっているのか。	平成24年度に実施した調査では、夏の犬山キャンペーン開催期間（平成24年8月1日～8月31日）及び秋の犬山キャンペーン開催期間（平成24年9月15日～12月2日）に加え、平成24年9月1日～9月14日、12月3日～12月24日で3,200名から回答を得られた。令和元年度に実施した調査では、年11月2日及び11月6日（お菓子のお城のみ11月8日）で1,033名から回答を得られた。
8		日帰り中心の犬山観光を、大きく宿泊・体験型に変えていく。名古屋圏から来る日帰り観光を、インバウンドを含めてより広域にアプローチしていく大きく戦略を変えることがプランで一番重要なところ。そこがきちりと表現されているかが問われる。	方針別の施策に「7-2 広域連携による周遊観光の構築」を追加。チャレンジする重点施策「広域観光・周遊ルートの造成（犬山を宿泊拠点とした広域周遊）」を、「周辺自治体と連携した広域観光・周遊ルートの造成（犬山を宿泊拠点とした広域周遊）」に修正する。
9	梅川委員	章毎でぶち切れ感があり、流れがわかりづらい。2章で犬山らしさ、特徴を抽出して終わってしまっている。2章から3つの景に集約されるというのが結論であるはず。2章と4章がつながっていると腑に落ちてくるが、3章が入ってくると腑に落ちない。	2章「観光の歴史的経緯と資源」と3章「観光を取り巻く現状と課題」の並び順を入れ替えることとして流れを良くした。
10		4章で体系整理されるが、いきなり重点プロジェクトになる。7章になれば3つの基本理念に基づいた方向性が示されている。6章と7章を入れ替えると流れがよくなるのではないか。SDGsも突如感がある。	6章「重点プロジェクト」と7章「方針別の施策」の並び順は、計画としては両方あり得ると認識している中で、重点プロジェクトを先にインパクト重視でしっかりと打ち出していくという意向を持っており、あえてこのままとした。SDGsについて、持続可能な観光まちづくりを進めるために関連性を説明したいと考え記載している。現在基本理念とまちづくりの将来像との対比を持って考え方の整理をしようとしているが説明文については精査中である。
11		2章と3章の順番は入れ替えてもいい。6章と7章の順番はこれまで議論してきたが、いろいろな方のご意見をお聞きしたい。経験上、計画のつくり方としてはどちらもあり得る。インパクトを重視するか、流れをよくするか。	2章「観光の歴史的経緯と資源」と3章「観光を取り巻く現状と課題」の並び順を入れ替え流れを良くした。6章「重点プロジェクト」と7章「方針別の施策」の流れは、両方あり得るが、重点プロジェクトを先に持っていくとしっかりと打ち出す意向とし、並び順の変更は行わないこととする。
12	服部部会長	ターゲットが総花的で優先順位がついていない。今回何に重点をおいてシフトしようとしているのかの方向性を示しておいた方がいい。コロナ禍からの回復プログラムは、これはあくまでもコロナを想定した時の回復プロジェクトとしての優先順位である。	「4-5 戦略の体系整理」に、現状のメインターゲットである若い世代やファミリーも大切にしつつ、観光まちづくりの推進により、様々なターゲットに対して、取組みを展開していくこととしている。その中で特に、重点ターゲットとして滞在・体験型（圏域拡大）とMICEのうちMIを誘客を重点ターゲットとして対応することを記載しメリハリをつけた。

■第8回犬山市観光戦略専門部会（令和3年10月29日開催） 発言要旨と対応方針

番号	委員名	要旨	対応方針
◆資料3（観光戦略の体系について）について			
13	梅川委員	「景」の意味を丁寧に説明した方がいい。景色など見たものだけではなく、市民の暮らしや営み、文化も含めたものが「景」である。そこを説明すべき。	「4-1 犬山らしさの基本コンセプト」にて、『犬山三景 水景・城景・緑景』の説明文章を追記することで市民・関係者への理解を深める。
14		「犬山三景 水景・城景・緑景」をどうするのか、ということが入ると将来像になるのではないか。3つの景を「市民と育む」ことを表現すると、将来に向けて3つの景を大切に守っていくということがわかる。	
15	奥村委員	「基本コンセプトイメージ」案②と案③の上段に”犬山の観光（景観・資源）のみなもと”とあるが、案①には入れなくてよいか。	犬山の景観・資源のみなもとというのが一番最初の案①の基本コンセプトという意味なので、イメージ図には用いない。説明分の中で補足する。
16	梅川委員	観光まちづくりの将来像と三景との関係性がわかりづらい。進め方の方がわかりやすいのではないか。説明の「今だけ、ここだけ、あなただけ」と「暮らすように旅する」が浮いてしまっている。	観光まちづくりの将来像の説明文「今だけ、ここだけ、あなただけ」と「暮らすように旅する」を削除し、『犬山らしさを磨き、ずっといたくなる、みんなでつくる・みんなのための観光』の観光まちづくりの将来像を細分化し、「犬山らしさを磨く」「ずっといたくなる」「みんなでつくる・みんなのための観光」毎に説明文を記載することで関連性を持たせる。
17		理念毎にターゲットが整理されているがわかりづらい。ターゲットが細過ぎる。次元も異なっており、並列で並んでいるためわかりづらい。近隣、広域、インバウンドくらいの分け方でいいのではないか。回復プログラムも同様。	「4-3 対象となる観光客層への対応」で設定したターゲットについて、年代、圏域、目的とカテゴライズしてわかりやすく表記する。また、「コロナ禍からの回復プログラム」で設定した回復プログラムのロードマップで記載した観光ターゲットも同様にカテゴライズして表記する。
18	服部部会長	P.10「◆8つの基本的方向性」が体系整理で分けた部分があるため一致していない。下の「◆推進体制構築の考え方」とダブっている。	「4-5 戦略の体系整理」に合わせ、5つの基本的方向性と下支えする3つの基盤に分割する。
◆資料4（観光構想図）について			
19	梅川委員	観光構想図は珍しい言い方。三景をパターン化するのが構想図ではないか。	観光構想図を「将来構想図」に修正する
20	服部部会長	モンキーセンターの記述あたりは寂光院も含めておいた方がいい。城下町エリアの図にある「旧湊」は、現代的なもので「鵜飼乗船場」と書いた方がよい。生々しくならないようにしたいなら、通りを指定しないで回遊性を表現してはどうか。犬山城から木ノ下城跡の矢印は何か。	ご指摘のとおりであり修正する。 犬山城から木ノ下城跡の矢印は、木ノ下城跡で取り組む施策がないため、木ノ下城跡を削除するとともに、矢印も削除する。
◆資料5（目標設定）について			
21	梅川委員	目標設定は多くするとデータ収集だけになってしまうので、絞りに絞った方がいい。一つだけ入れてほしいのは、住民に観光の重要度を理解してほしいため、観光に対する理解度を押し量ってはどうか。	ホスピタリティのKPIは現在検討中であるが、観光に関する理解度、参画度を押し量るものとして「観光まちづくり会議の述べ参加者数」などを設定することとした。
22	服部部会長	ホスピタリティに2つ指標があるが、おもてなし側の指標が必要ではないか。例えば市民の観光まちづくりへの参加人数など。	ホスピタリティのKPIは現在検討中であるが、観光に関する理解度、参画度を押し量るもの、おもてなし側（住民側）の指標として「観光まちづくり会議の述べ参加者数」などを設定することとした。
23	片山委員	犬山のランドマークは犬山城。入場者数は大きな指標になるのではないか。	それぞれの観光施設の入込客数は個別の指標にはなるが、大目標は3つの基本理念（滞在宿泊・魅力の向上・おもてなし受入体制）に対するものであるため今回は入場者数は大目標には設定していない。しかしながら、進捗状況を把握・確認するための数値としては必要であり、データをフォローして公表という取り組みは考えている。
24	梅川委員	消費額というのはすごく重要。犬山経済の中で観光がどれだけの役割を果たしているのかが明確になる。地元調達率は大変難しいかもしれないが、重要である。アンケートでやと思うが、調査は大変かも知れない。やり始めると深くなりすぎてしまうので、簡易な方法でざっくりと掴むという感じかと思う。	消費額については、KPIの大目標として設定することとしている。地元調達率は、抽出アンケート調査で考えているが、大まかに掴むという形になると想定している。
25	梅川委員	産業連関表も県レベルで作っていてそれを犬山市で使うと言いたいことと違う数字になっちゃうのではないかな。	経済効果については検討し把握することとするが、大目標には入れない。入込客数などと同様、データ収集し把握しておき進捗管理や効果などの参考値とする。

■第8回犬山市観光戦略専門部会（令和3年10月29日開催） 発言要旨と対応方針

番号	委員名	要旨	対応方針
◆資料6（重点プロジェクト）について			
26	服部部会長	全体的な目標をアウトカム、個別の施策をアウトプットで設定してはどうか。	全体目標KPIをアウトカムで設定し、個別の施策にアウトプット的な数値目標を設定するよう整理する。
27	梅川委員	重点プロジェクトは誰が責任を持ってやるのか、推進主体がはっきりしなければいけないのではないかと。具体的に書けなくても民間、観光協会など。どれくらいのスケジュール間でやっていくのかのロードマップもあるとよい。	実施主体については、大まかではあるが重点プロジェクトに設定することとする。ロードマップについても同様に記載する。
28	服部部会長	重点プロジェクトの重点性をどうアピールするか。60ある施策を短期、中期、長期くらいで実施時期を示した方がいいのではないかと。主体は行政、関係団体、事業者、市民の4つのカテゴリがあり、星取表があるとわかりやすい。	実施の年次については詳細を書くことは難しいが、短・中・長くらいの把握で重点プロジェクトにロードマップとして記載する。
29		SDGsとの関係を整理した方がいい。体系整理のあたりでSDGsと基本理念との関係を整理しておく必要がある。	観光まちづくりの将来像の後に、観光戦略における持続可能な開発目標（SDGs）への対応を追記し関連性を持たせる。
◆資料7（方針別の施策）について			
30	服部部会長	成果指標がアウトカムっぽい。アウトプットでいいのではないかと。目標設定とのメリハリが足りない。	方針別施策に記載する個別の目標指標については、再度検討しアウトプット的な指標を設定することとする。
31		情報発信についてあまり書き込まれていない。多様な媒体を活用した情報発信など。7-6～7-8までの書き方がまだ薄い。個別の施策が入っていないし、成果指標がない。	情報発信については、「7-6 データを活用したプロモーションの展開」の取り組み内容に、「SNS等の多様な媒体を活用した情報発信」「フィルムコミッション等の活動推進（映画・映像製作による犬山の価値と魅力向上）」を追記する。7-6～7-8までの取り組み内容や詰まったレイアウトを見直し、修正する。
32		映像の話が入っていない。フィルムコミッション。	
33	梅川委員	施策の数が多いため、何からやっていくか優先順位が必要。	重点プロジェクトに大まかなロードマップを記載し取組む順番などを把握していく。
34	奥村委員	P4に特産品開発とあるが、東京に特化するのか。	全国ブランド化する主旨に記載内容を修正する。
35	梅川委員	SDGsのアイコンが入っているが、何らかの関係性を書くのか。	現在作業中であるが、観光まちづくりの将来像の後に、観光戦略における持続可能な開発目標（SDGs）への対応を追記し、基本理念・将来像との関連性を持たせる。
36	服部部会長	SDCsは体系整理で基本理念との関係性を整理した上で、目標設定のところ、それぞれの目標設定がどのゴールのターゲットに関係しているのかを整理する。書くからにはゴールではなくターゲットで書かないと大雑把過ぎる。ターゲットを絞り込む。	現在作業中であるが、観光まちづくりの将来像の後に、観光戦略における持続可能な開発目標（SDGs）への対応を追記し、基本理念・将来像との関連性を持たせる。整理の仕方としては、169のターゲットとの関係性を整理することとする。
◆資料8（コロナ禍からの回復プログラム）について			
37	梅川委員	ロードマップが細か過ぎるのではないかと。レスポンシブルツーリストは最初からやるべき。近隣の方々から始まって、特定の人が次にきて、その後に広域になるくらいでいいのではないかと。	回復プログラムのロードマップにおけるレスポンシブルツーリスト（責任ある旅行者）は第1期から開始することとし、矢印を伸ばす。日帰り観光・特定目的・SIT～ビジネス・名古屋圏外～広域～インバウンドの流れを整理する。
38	服部部会長	ターゲットの視点が入り乱れている。年代、圏域、テーマ性の3つくらいに分けて整理してはどうか。	年代、圏域、目的とカテゴリ化してわかりやすくなるよう表記する。
39		直さなければならないところがたくさんある。直せるところは直した方がいいが、直せなかったら、出された意見を提示し、次に送るといったものもある。	11/19親会議には修正済み分と整理中に分けて説明。

■第8回犬山市観光戦略専門部会（令和3年10月29日開催） 発言要旨と対応方針

番号	委員名	要旨	対応方針
◆資料9（戦略の評価と見直し）について			
40		推進体制で一番難しいのは「C」。戦略会議のその機能を持たせるのか。	Cは庁内調整会議、推進体制にて実施し、戦略会議（もしくは専門部会）においても年1回程度、報告に対し助言をいただく機会を想定しておりCを考えている。
41	梅川委員	5年毎に評価・見直しとなっているが、5年もすれば状況が大きく変わっている。評価は毎年やらなければならないと思うが、見直しは間隔を短くしないと使えなくなる可能性がある。2～3年で見直しをしないと、時代の変化が大きい。	3年毎に時点修正する旨を記載する。修正作業は市及び推進体制で実施予定。R9は戦略の中間見直しにあたる時期であるため、時点更新ではなく、中間評価・見直しと記載する。
42	服部部会長	審議会等の会議体でチェックするのと、恒常的に専門家のアドバイスを受けるやり方がある。両方でチェック体制を構築することもある。	行政（担当課、庁内調整会議）、推進体制（民間・団体含む）で推進～チェックを行う体制とする。その上で戦略会議（もしくは専門部会）にて報告に対する助言をいただくこととしたい。アドバイザー的な仕組みは今後検討する。PDCAの説明資料にて推進体制と庁内調整会議との連携を表記する。
43		観光のスピード感は他の計画と違う。	時々刻々と変化するものと認識しており、関係者による随時協議・見直しが必要と考える。その上で3年ごとの時点修正（ローリング）も実施する。